

全日本民医連第33次辺野古支援連帯行動 (1/27~29)に参加して

今回県連からは、善通寺診療所・松岡師長との2名参加でした。全体では57名の参加。2/3くらいが、入職して数年の青年職員でした。

1日目は、嘉数高台公園や道の駅からの米軍基地見学、夕方に名護市役所を表敬訪問し、夜の交流会では、辺野古・高江の運動に関わっておられる方から現状報告がありました。「沖縄の問題は、沖縄だけのことではない。日本全体の問題だ」の言葉が響いてきます。

2日目は、高江・辺野古へ行きのバスの中で、映画「標的の村」に出演されていた伊佐さんから高江の現状を、沖縄民医連の瀬長さんから辺野古の現状をレクチャーしていただきました。高江はヤンバルクイナを始め、カエル・チョウ・トカゲなど希少価値の動物、ランなども新種みつかるとの宝庫ですが、「標的の村」でのあったようにベトナム戦争のころから基地があり、今も全面に基地が完成していないのに勝手にヘリやオスプレイが飛び交い、ヘリパットに着陸して爆音を鳴り響かせていました。

辺野古は27日から、新基地建設のボーリング調査のためのコンクリートブロックを海に沈める作業の強行が始まり、基地前では、集会が開かれ緊迫した状況でした。基地の玄関には、アルソーイックの警備員が20人くらい、その背後に機動隊のバスが3台、公安もいるということでした。また、海上にも海上保安庁の巡視船が12隻沖合に停泊し、住民を監視していました。機動隊も会場保安庁も住民を守るのではなく、米軍基地を守っている姿に憤りを感じ



ました。辺野古基地前での集会に合流し、参加の方々と緊迫した中で交流しました。こんな情勢の中での座り込みですが、「来てくれただけでうれしい」と声をかけられ、「沖縄をかえせ」を歌い、エイサーを踊ったりと、明るく座り込みをされる姿に元気をもらいました。

今回の参加の中で、理事の田村先生が「マザーテレサの言葉で『無関心が一番の悪だ』』という言葉が心に残っています。無関心な人を1人でもなくすことが、私の役割になると思っています。これから自分の言葉で伝えること、辺野古支援連帯行動にたくさんの方に行ってもらいたい、私もまた、今度は自ら元気をもらいに高江・辺野古にも出かけたいと思っています。今回の行動は・支援・連帯行動です。連帯という意味を十分理解しました。全日本民医連のこの行動が33回も続いていることに脱帽します。大変な中で私を送り出してくれた病院・職場のみなさんに感謝します。ありがとうございました。

(高松平和病院リハ科 大西和子)

リレー



投稿

いつでも憲法

県連理事に続いて各事業所の管理者・職場長の方々に、憲法に対する想いをリレーで投稿してもらいます。

私の両親は、昭和10年と12年生まれ。ともに片親で、上の学校にも行けず、中学を出ると就職して家計を支えてきた。川で獲ったドジョウを店に売りに行ったそうだ。両親は新しい憲法の下で社会を知った。高度成長の初期に生まれた私は、憲法と教育基本法によって成長した。憲法の理念と教育基本法の本質は、私の身体にしみこんで血液や筋肉（脂肪も）になった。憲法改悪の話がニュースに出るたびに、私は我が身を切られるように感じる。私が育って学んできたものが否定されている。言葉の通りに学んできたものが、解釈改憲によってどんどんゆがんでいく。怖い。生存の危機だ。

小泉首相は、マスコミ受けしやすい言葉で人気を得て、新自由主義の政策を進めた。その時の私たち自身の生活は維持できてきたが、長い目で社会を見ると不安定雇用の労働者が増え、介護労働者の給料はいつまでたっても上がらず、安けりゃいい生活で社会全体の質が低下して、平等という憲法の理念からは程遠い格差社会が進行してきた。

安倍政権に至っては強権的な政策、外交で日本人の生命を危機にさらしている。イスラム国の人質の命など初めから守る気なんてなかった。安倍首相の中で9条はどうに形骸化してしまった。アメリカナイズされた安倍政権、格差は広がる一方、食べていけない人々は「自衛隊」に行くと、仕事と食事でありつけるので兵隊になるだろう。戦争が私たちの生存権を脅かす時代が目の前に来ているようだ。

善通寺診療所師長 松岡艶子